

認知症高齢者の意思決定を支える介護福祉士の実践と課題

○明治学院大学 金 圓景 (7133)

上田 晴男 (支援の思想研究会・8476)

キーワード3つ: 介護福祉士・意思決定支援・認知症高齢者

1. 研究目的

認知症のある人への意思決定支援の重要性が強調されている今日、どのように意思決定を支えるべきか関連ガイドラインやツールが多く発表されている。しかし、その多くが Well-Dying に向けた医療的なケアに関するものであり、Well-Being に向けた日常生活における意思決定をどのように支えるべきかに関する検討は充分ではない(金 2021, 2023)。今後、増え続けることが予想される認知症高齢者の日常生活における意思決定支援の具体的な新方法や技術などが体系化されていない(鈴木ら 2022)。

これらの現状を踏まえて本研究は、介護福祉士が認知症高齢者の日常生活の意思決定を支えているなかで、どのように意思を把握し、実現しているのか、その実践現状と課題を検討することで、意思決定支援に関する介護福祉実践の体系化を試みることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

地域密着型介護事業所を複数運営している A 法人に依頼し、調査に協力が得られた介護福祉士 4 名を対象に、一人当たり 60-90 分の半構造化インタビュー調査を実施した(調査期間: 2022 年 7 月)。調査内容は、日常生活の中で、認知症高齢者の意思をどのように把握しているか、必要な情報を理解できる方法で伝えているか、表明された意思を支援に反映されているかなど工夫していることについてである。

分析の際には、逐語録を作成した後、佐藤(2008)を参考に、定性的コーディングを行い、「事例-コード・マトリックス」を作成した。これらの分析結果の信頼性・妥当性を高めるために共同研究者間で再度、確認を行った。

3. 倫理的配慮

調査を実施する前に、調査説明書などの一式を送付し、調査協力への同意を得た後、調査当日も口頭で説明し、書面で同意を得た。また、対象者の匿名性とプライバシーを厳守することを重ねて説明し、インタビュー内容の録音への了解を得た。なお、本研究は明治学院大学社会学部社会福祉学科調査・研究倫理審査を受け、承認を得て調査を実施した(SW22-02)。本発表に関連して、開示すべき COI はない。

4. 研究結果

分析の結果、全員、介護福祉士として認知症高齢者の意思決定を支えるために、なかなか言葉が出ない方の場合でも、まずは本人に聞くことを大事にするなど、<本人への意思

把握方法>に努めていた。しかしながら、日常生活を支える中で認知症高齢者の意思を把握することは簡単ではなく、それぞれ<本人の意思を知るための工夫>をしていた。例えば、グループホームで働くAさんは、1時間に1回、認知症高齢者のところに行って様子を確かめるか話し掛けるなど、本人の意思はなにか、把握するために工夫していた。

また、調査対象者の全員、言葉の裏に隠された本人の意思、もしくは行動の観察などを通して、<本人の隠された意思の把握>に努めていた。その際には、全員が<非言語的コミュニケーションに着目>しているほか、<チームアプローチ>を大事にしていた。その他、介護福祉士として認知症高齢者の日常生活を支えるなかで把握できた<本人の意思を支援内容に反映>していたが、全員が<意思把握・決定の難しさ>に悩んでいた。

5. 考察

本研究は、介護福祉士が認知症高齢者の日常生活の意思決定を支えているなかで、どのように意思を把握し、実現しているのか、その実践現状と課題を検討することを目的とした。その結果、介護福祉士は認知症高齢者の日常生活の意思決定を支えるための実践として、<本人への意思把握><本人の隠された意思把握><本人の意思を知るための工夫>を行っていることが把握できた。

また、その際には、認知症高齢者の意思形成・表明支援場面において<非言語的コミュニケーションに着目>し、意思実現支援として<本人の意思を支援内容に反映>していた。これらの介護福祉士の意思決定支援の実践システムを支えるものとして、<チームアプローチ>の重要性が確認できた一方で、実践上の課題として<意思把握・決定の難しさ>も確認できた。さらに、これらの介護福祉士による認知症高齢者の日常生活における意思決定支援の前提として、日々の「関わり」、「アセスメント」、「記録」の重要性が示唆された。

これらの調査結果を踏まえて今後、「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」（厚生労働省 2018）等の具体的な実践方法についてさらに検討・開発していくことが課題として残された。

*本研究は、日本学術振興の研究補助金（若手研究（19K14001）「認知症ケアにおける意思決定支援プログラムの開発」）の助成を受けたものである。

【引用文献】

金圓景（2021）「認知症の人の意思決定支援をめぐる動向」『明治学院大学社会学・社会福祉学研究』第157号，225-237.

金圓景（2023）「地域で暮らす認知症高齢者の意思決定支援に関する一考察：地域包括支援センターの社会福祉士を中心に」『明治学院大学社会学・社会福祉学研究』第160号，51-69.

鈴木みずえほか（2022）「介護老人保健施設における認知症高齢者に対する意思決定支援の実態と関連要因」『日老医誌』59，312-322.

佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法；原理・方法・実践』新曜社，東京.

厚生労働省（2018）「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」